

能代市のまちづくりに関する

『市民アンケート調査』

年代別集計結果

目 次

第 1 章 年代別集計結果の概要.....	1
第 2 章 年代別集計結果.....	5
1. 日常生活についての評価等.....	6
1-1. 満足度および重要度.....	6
1-2. 居住地域に不足する施設.....	7
1-3. 日常生活で影響が生じると困ること.....	9
2. 土地の使い方について.....	10
2-1. 今後の住宅地のあり方や力を入れていくべき取り組みとして重要だと考えるもの ...	10
2-2. 商業地の集積地として望ましい場所.....	11
2-3. 今後の農地のあり方.....	12
3. 都市基盤整備のあり方について.....	13
3-1. 道路整備や交通について力を入れるべき整備や取り組み.....	13
3-2. 公園や緑について力を入れるべき整備や取り組み.....	14
3-3. 自然環境を守り美しい景観をつくるために力を入れるべき整備や取り組み..	15
4. 都市防災について.....	16
4-1. 防災対策について力を入れるべき整備や取り組み.....	16
5. 今後のまちづくりについて.....	17
5-1. 20 年後の能代市の望ましいイメージ.....	17
5-2. 住み替えの意向.....	18
5-3. まちづくり活動に対する意向.....	20

第 1 章

年代別集計結果の概要

1. 日常生活についての評価等

1-1. 満足度および重要度

- ・全ての年代で、重要度は3.0/5.0以上となっている。
- ・全ての年代で、「公共交通基幹の便利さ」「娯楽・レジャー施設の充実度」「観光施設の充実度」の満足度が低くなっている。
- ・50代未満では、「街路樹等緑の充実度」「犯罪に対する安全性」「土砂災害に対する安全性」の順に満足度が高くなっている。
- ・50代以上では、「自然の豊かさ」「幹線道路の便利さ」の満足度が高くなっている。

1-2. 居住地域に不足する施設について

(1) 不足する施設の有無

- ・「ある」の割合は、年代が下がるほど高くなっており、50代未満では50%以上を占めている。
- ・一方、10～20代と高校生の傾向は異なっており、高校生では「ある」の割合は25%程度である。

(2) 不足する具体的な施設（「ある」と回答した方のみ）

- ・50代未満では、「飲食店・レストラン」「スーパーマーケット」「公園、広場」の割合が高くなっている。
- ・50代以上では、「スーパーマーケット」「診療所、医院」の割合が高くなっている。

1-3. 日常生活で影響が生じると困ること

- ・50代未満では、「利用者の減少により、スーパーなどの店舗が撤退する」「人口が減少するため、1人あたりの税負担が増加する」の割合が高くなっている。
- ・50代以上では、「高齢化の進行により、医療費などの社会保障費が増加する」「利用者の減少により、スーパーなどの店舗が撤退する」「人口が減少するため、1人あたりの税負担が増加する」の割合が高くなっている。
- ・10～20代では、「鉄道やバスの運行本数が減る、路線がなくなる」の割合も高くなっている。

2. 土地の使い方について

2-1. 今後の住宅地のあり方や力を入れていくべき取り組みとして重要だと考えるもの

- ・「計画的なまちづくりの推進」の割合は年代が下がるほど高くなっており、10～20代では50%以上を占めている。
- ・「空き地・空き家などへの対策」の割合は年代が上がるほど高くなっており、30代以上では50%以上を占めている。

2-2. 商業の集積地として望ましい場所

- ・10～20代では、「駅周辺の中心市街地」および「市街地における幹線道路沿い」がそれぞれ40%程度と同水準となっている。
- ・30代以上では、「市街地における幹線道路沿い」の割合が最も高く、特に30～60代では50%以上を占めている。

2-3. 今後の農地のあり方

- ・10～20代では、「今ある農地を守っていくべき」の割合が最も高くなっている。
- ・30代以上では、「市街地の隣接地や幹線道路沿いであれば農地を他の用途に変えてもやむを得ない」の割合が最も高くなっている。

3. 都市基盤整備のあり方について

3-1. 道路整備や交通について力を入れるべき整備や取り組み

- ・全ての年代で、「バス等の交通手段を確保する」の割合が最も高く、年代が上がるほど、その割合は高くなっている。

3-2. 公園や緑について力を入れるべき整備や取り組み

- ・全ての年代で、「災害時の避難場所に活用できる公園や広場づくり」の割合が高く、年代が上がるほど、その割合は高くなっている。
- ・10～20代では、「まちなかの賑わいを創出するためのイベント広場の整備」の割合が最も高くなっている。

3-3. 自然環境を守り美しい景観をつくるために力を入れるべき整備や取り組み

- ・全ての年代で、「歴史的な景観や建造物の保全」「周辺の山林や水辺などの豊かな自然の保全」の割合が高くなっている。
- ・「電線類の地中化」の割合は、年代が上がるほど高くなっている。

4. 都市防災について

4-1. 防災対策について力を入れるべき整備や取り組み

- ・全ての年代で、「大雨による河川の氾濫や浸水被害に対する対策（堤防、遊水地、排水機場等）」「安全な避難場所（避難タワー、避難ビルを含む）の整備」の割合が高くなっている。

5. 今後のまちづくりについて

5-1. 20年後の能代市の望ましいイメージ

- ・10～20代では、「旧能代市中心市街地や旧二ツ井町中心部での買い物がしやすいまち」「お年寄りや障がいをもつ人にやさしいまち」「鉄道やバスなどの公共交通の便が充実したまち」の順に割合が高くなっている。
- ・30代以上では、「お年寄りや障がいをもつ人にやさしいまち」「医療福祉施設が近くにあるまち」「防災・防犯に優れた安全・安心なまち」の割合が高くなっている。

5-2. 住み替えの意向

(1) 住み替えの意向

- ・全ての年代で、「現在地に住み続けたい」の割合が最も高く、年代が上がるほど、その割合は高くなっており、30代以上では50%以上を占めている。
- ・「可能であれば市外へ移りたい」の割合は、年代が下がるほど高くなっている。

(2) 住み替えたい場所（「②住み替えたい理由」を回答した方のみ）

- ・全ての年代で、「日常的な買い物や飲食が便利な地域」の割合が最も高くなっている。
- ・10～20代では、「娯楽や交流施設が充実した地域」「鉄道やバスを利用しやすい地域」の割合が高くなっている。
- ・30代以上では、「診療所や医院など医療施設が充実した地域」の割合が高くなっている。

5-3. まちづくり活動に対する意向

- ・「協力を求められれば、できる範囲で参加したい」の割合は、年代が下がるほど高くなっている。

第 2 章

年代別集計結果

1. 日常生活についての評価等

1-1. 満足度および重要度

- ・全ての年代で、重要度は3.0/5.0以上となっている。
- ・全ての年代で、「公共交通基幹の便利さ」「娯楽・レジャー施設の充実度」「観光施設の充実度」の満足度が低くなっている。
- ・10～20代では、「街路樹等緑の充実度」「犯罪に対する安全性」「土砂災害に対する安全性」の順に満足度が高くなっている。
- ・30～40代では、「街路樹等緑の充実度」「土砂災害に対する安全性」「犯罪に対する安全性」の順に満足度が高くなっている。
- ・50～60代では、「自然の豊かさ」「幹線道路の便利さ」「水のきれいさ」の順に満足度が高くなっている。
- ・70代～では、「自然の豊かさ」「幹線道路の便利さ」「身近なまち並みや周辺の景観」の順に満足度が高くなっている。

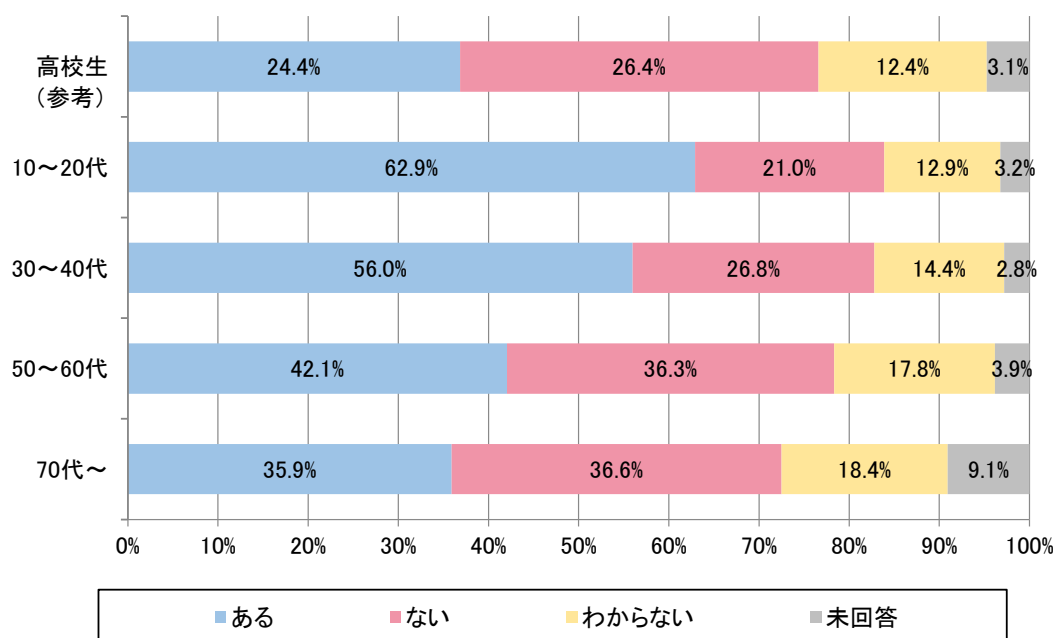
		10～20代		30～40代		50～60代		70代～	
		満足度	重要度	満足度	重要度	満足度	重要度	満足度	重要度
道路交通	① 市内の地域間を結ぶ幹線道路の便利さ	2.84	4.07	3.07	3.79	3.12	3.63	3.17	3.59
	② 身の回りの生活道路の利便性や安全性	2.89	3.67	2.95	3.64	2.89	3.63	3.08	3.64
	③ バスや鉄道などの公共交通機関の便利さ	2.03	4.05	2.22	3.68	2.36	3.59	2.65	3.59
	④ 歩行者の歩きやすさや自転車の走りやすさ	2.63	4.00	2.72	3.50	2.72	3.57	2.89	3.53
	⑤ 交通事故に対する安全性	2.87	3.93	2.78	3.70	2.80	3.68	2.96	3.66
住環境	⑥ 日頃利用する公園や子供の遊び場	2.77	3.42	2.87	3.32	2.67	3.33	2.74	3.44
	⑦ 街路樹や花壇など、緑の充実度	3.42	3.60	3.31	3.22	2.98	3.25	2.92	3.38
	⑧ 買い物の便利さ	3.18	4.13	3.09	3.84	2.91	3.75	2.94	3.74
	⑨ 娯楽・レジャー施設の充実度	2.48	3.88	2.47	3.89	2.28	3.48	2.49	3.26
	⑩ 医療福祉施設の利用しやすさ	3.27	4.08	3.13	3.83	2.76	3.87	2.94	3.72
	⑪ 図書館等の公共施設の利用しやすさ	2.92	3.86	2.89	3.40	2.82	3.33	2.81	3.35
	⑫ 下水道や排水路の整備状況	3.10	3.62	2.92	3.49	2.72	3.74	2.83	3.71
自然環境・景観	⑬ 身近なまち並みや周辺の景観	2.95	3.35	3.07	3.26	3.04	3.35	3.16	3.33
	⑭ 山並みの眺望や田園風景など自然の豊かさ	3.11	3.42	3.23	3.26	3.34	3.34	3.38	3.31
	⑮ 河川・水路などの水のきれいさ	3.18	3.45	3.06	3.29	3.06	3.44	3.10	3.53
	⑯ 地域の伝統文化の保全や活用状況	2.90	3.83	2.98	3.55	2.91	3.40	2.89	3.40
	⑰ 観光施設の充実度	2.53	3.73	2.47	3.76	2.47	3.51	2.61	3.38
防災・防犯	⑱ 洪水に対する安全性	3.02	4.20	3.10	4.06	2.91	3.94	2.88	3.82
	⑲ 津波に対する安全性	3.08	4.08	3.00	4.13	2.94	3.83	3.05	3.74
	⑳ 土砂災害に対する安全性	3.31	3.83	3.30	3.64	3.00	3.74	3.06	3.65
	㉑ 犯罪に対する安全性	3.34	4.00	3.24	3.82	2.97	3.83	3.00	3.78

▲ 年代別集計

1－2．居住地域に不足する施設

(1) 不足する施設の有無

- ・10～20代では、「ある」の割合が62.9%と最も高く、次いで「ない(21.0%)」、「わからない(12.9%)」の順になっている。
- ・30～40代では、「ある」の割合が56.0%と最も高く、次いで「ない(26.8%)」、「わからない(14.4%)」の順になっている。
- ・50～60代では、「ある」の割合が42.1%と最も高く、次いで「ない(36.3%)」、「わからない(17.8%)」の順になっている。
- ・70代～では、「ない」の割合が36.6%と最も高く、次いで「ある(35.9%)」、「わからない(18.4%)」の順になっている。



▲ 年代別集計

(2) 不足する具体的な施設（「ある」と回答した方のみ）

- ・10～20代では、「飲食店・レストラン」の割合が43.2%と最も高く、次いで「スーパーマーケット」、「公園、広場」「文化施設」で20.0%を上回っている。
- ・30～40代では、「飲食店・レストラン」「公園、広場」の割合が31.6%と最も高く、次いで「スーパーマーケット」、「診療所、医院」で20.0%を上回っている。
- ・50～60代では、「スーパーマーケット」の割合が32.8%と最も高く、次いで「診療所、医院」、「飲食店・レストラン」、「公園、広場」で20.0%を上回っている。
- ・70代～では、「スーパーマーケット」の割合が36.4%と最も高く、次いで「診療所、医院」「文化施設」、「集会・交流施設」で20.0%を上回っている。

	高校生(参考)	10～20代	30～40代	50～60代	70代～
診療所、医院	1.8%	5.4%	20.6%	27.0%	22.2%
介護福祉施設	0.5%	8.1%	2.2%	6.3%	10.1%
小学校	0.0%	2.7%	1.5%	3.2%	2.0%
幼稚園等	0.3%	8.1%	2.9%	2.6%	4.0%
児童館等	0.5%	2.7%	5.9%	2.1%	3.0%
集会・交流施設	2.9%	5.4%	7.4%	13.2%	21.2%
スーパー	10.5%	24.3%	22.8%	32.8%	36.4%
コンビニ	15.8%	18.9%	19.9%	19.0%	10.1%
飲食店	22.6%	43.2%	31.6%	23.8%	19.2%
銀行	0.3%	13.5%	13.2%	12.2%	16.2%
郵便局	0.3%	0.0%	4.4%	6.9%	6.1%
行政の窓口	0.3%	10.8%	8.8%	11.1%	14.1%
高齢福祉相談窓口	0.0%	2.7%	3.7%	5.8%	18.2%
駐輪場	0.8%	0.0%	1.5%	0.5%	1.0%
駐車場	0.8%	10.8%	7.4%	4.2%	6.1%
公園、広場	10.0%	21.6%	31.6%	21.7%	16.2%
文化施設	2.4%	21.6%	13.2%	9.0%	22.2%
体育施設	8.2%	10.8%	12.5%	11.6%	17.2%
バス停留所	3.2%	5.4%	8.8%	7.4%	13.1%
その他	6.1%	18.9%	12.5%	5.3%	2.0%

▲ 年代別集計

※上記グラフの集計は、回答者数に対する比率で、各選択肢の割合の合計は100%にならない。

1-3. 日常生活で影響が生じると困ること

- ・10～20代では、「利用者の減少により、スーパーなどの店舗が撤退する」「人口が減少するため、1人あたりの税負担が増加する」の割合が52.5%と最も高く、次いで「鉄道やバスの運行本数が減る、路線がなくなる」、「病院や学校、福祉施設などの公益施設が統廃合されて減る」、「商店街や駅前のにぎわいがなくなる」、「働き手の減少により、商工業などの企業が撤退する」、「高齢化の進行により、医療費などの社会保障費が増加する」で20.0%を上回っている。
- ・30～40代では、「人口が減少するため、1人あたりの税負担が増加する」の割合が55.9%と最も高く、次いで「利用者の減少により、スーパーなどの店舗が撤退する」、「高齢化の進行により、医療費などの社会保障費が増加する」、「病院や学校、福祉施設などの公益施設が統廃合されて減る」、「働き手の減少により、商工業などの企業が撤退する」、「道路や水道などのインフラが維持・更新できなくなる」、「鉄道やバスの運行本数が減る、路線がなくなる」で20.0%を上回っている。
- ・50～60代では、「高齢化の進行により、医療費などの社会保障費が増加する」の割合が60.5%と最も高く、次いで「人口が減少するため、1人あたりの税負担が増加する」、「利用者の減少により、スーパーなどの店舗が撤退する」、「鉄道やバスの運行本数が減る、路線がなくなる」、「病院や学校、福祉施設などの公益施設が統廃合されて減る」、「道路や水道などのインフラが維持・更新できなくなる」、「働き手の減少により、商工業などの企業が撤退する」で20.0%を上回っている。
- ・70代～では、「高齢化の進行により、医療費などの社会保障費が増加する」の割合が60.1%と最も高く、次いで「利用者の減少により、スーパーなどの店舗が撤退する」「人口が減少するため、1人あたりの税負担が増加する」、「鉄道やバスの運行本数が減る、路線がなくなる」「人が減り、地域のコミュニティを維持できなくなる」、「病院や学校、福祉施設などの公益施設が統廃合されて減る」で20.0%を上回っている。

	高校生(参考)	10～20代	30～40代	50～60代	70代～
店舗の撤退	58.4%	52.5%	50.4%	42.0%	43.7%
運行本数の減少	32.9%	47.5%	21.0%	30.4%	32.2%
にぎわいの減少	23.9%	29.5%	15.1%	12.8%	18.5%
インフラの弱体化	17.6%	9.8%	21.4%	24.4%	18.9%
公益施設の減少	26.1%	32.8%	37.4%	26.7%	24.8%
企業の撤退	20.3%	27.9%	27.7%	20.5%	19.2%
社会保障費の増加	28.7%	26.2%	46.2%	60.5%	60.1%
税負担の増加	48.4%	52.5%	55.9%	51.4%	35.3%
地域コミュニティの弱体化	7.9%	11.5%	12.2%	18.0%	32.2%
その他	0.0%	0.0%	0.8%	0.9%	0.7%

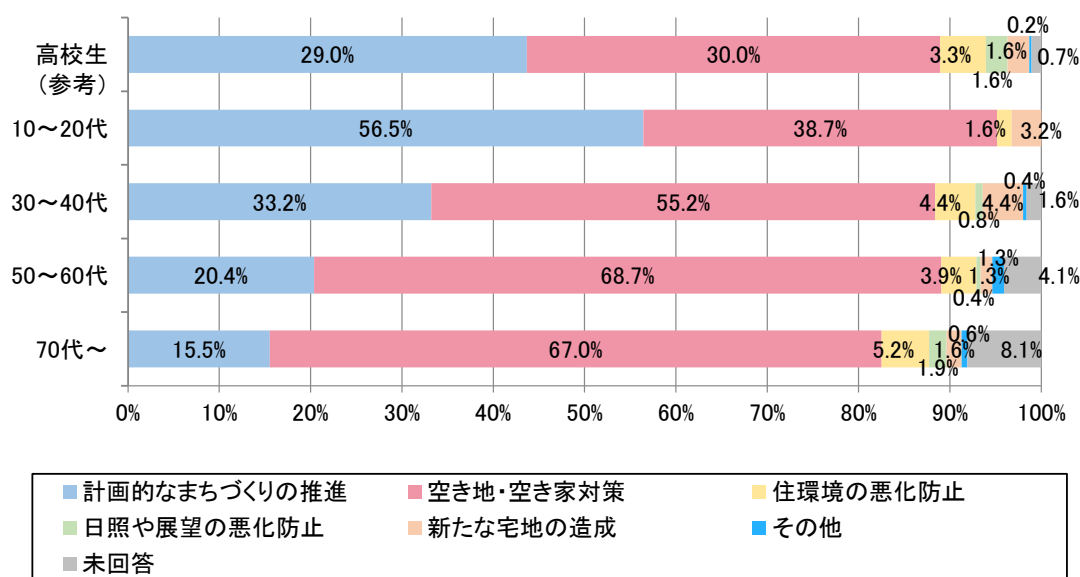
▲ 年代別集計

※上記グラフの集計は、回答者数に対する比率で、各選択肢の割合の合計は100%にならない。

2. 土地の使い方について

2-1. 今後の住宅地のあり方や力を入れていくべき取り組みとして重要だと考えるもの

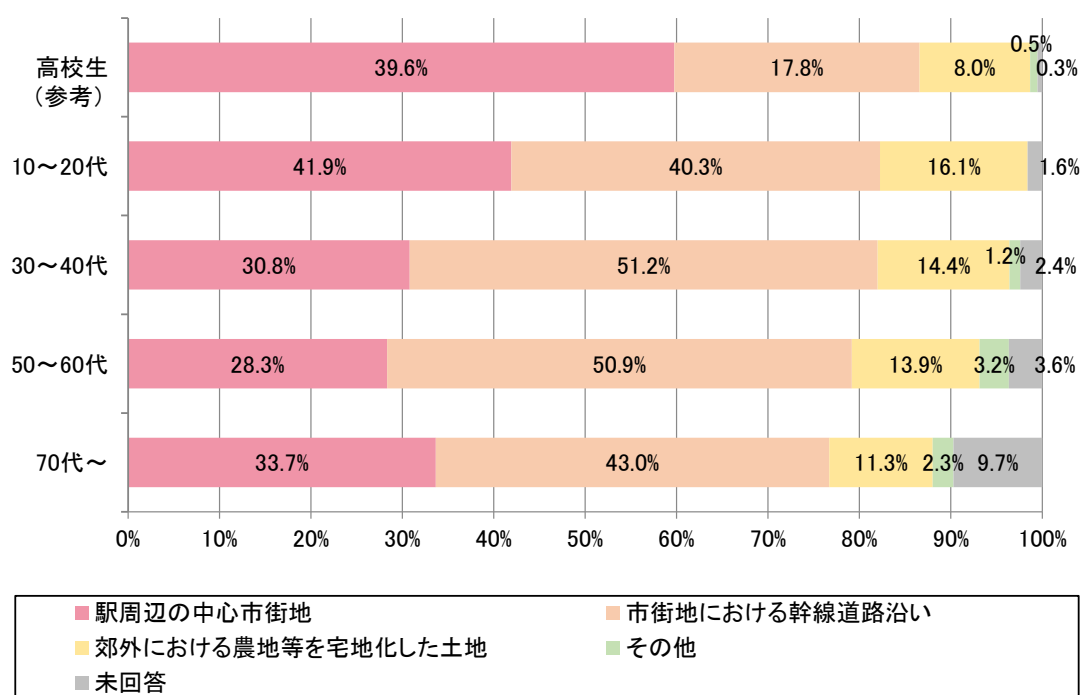
- ・10～20代では、「市街地の再開発事業による計画的なまちづくりの推進」の割合が56.5%と最も高く、次いで「空き地・空き家などへの対策（38.7%）」、「農地や山林等で新たな宅地の造成（3.2%）」の順になっている。
- ・30～40代では、「空き地・空き家などへの対策」の割合が55.2%と最も高く、次いで「市街地の再開発事業による計画的なまちづくりの推進（33.2%）」、「住宅と住宅以外の混在による住環境の悪化防止（4.4%）」「農地や山林等で新たな宅地の造成（4.4%）」の順になっている。
- ・50～60代では、「空き地・空き家などへの対策」の割合が68.7%と最も高く、次いで「市街地の再開発事業による計画的なまちづくりの推進（20.4%）」、「住宅と住宅以外の混在による住環境の悪化防止（3.9%）」の順（未回答除く）になっている。
- ・70代～では、「空き地・空き家などへの対策」の割合が67.0%と最も高く、次いで「市街地の再開発事業による計画的なまちづくりの推進（15.5%）」、「住宅と住宅以外の混在による住環境の悪化防止（5.2%）」の順（未回答除く）になっている。



▲ 年代別集計

2-2. 商業地の集積地として望ましい場所

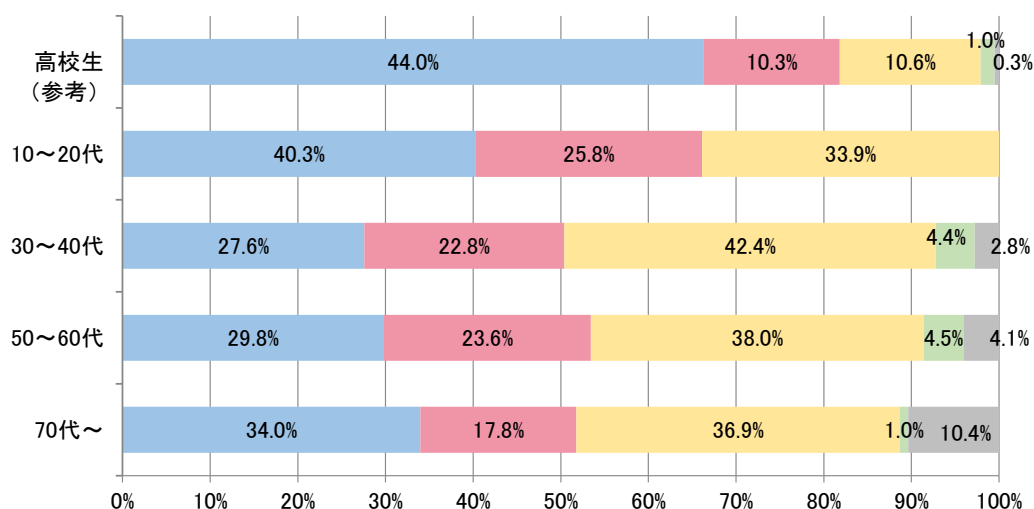
- ・10～20代では、「駅周辺の中心市街地」の割合が41.9%と最も高く、次いで「市街地における幹線道路沿い（40.3%）」、「郊外における農地等を宅地化した土地（16.1%）」の順になっている。
- ・30～40代では、「市街地における幹線道路沿い」の割合が51.2%と最も高く、次いで「駅周辺の中心市街地（30.8%）」、「郊外における農地等を宅地化した土地（14.4%）」の順になっている。
- ・50～60代では、「市街地における幹線道路沿い」の割合が50.9%と最も高く、次いで「駅周辺の中心市街地（28.3%）」、「郊外における農地等を宅地化した土地（13.9%）」の順になっている。
- ・70代～では、「市街地における幹線道路沿い」の割合が43.0%と最も高く、次いで「駅周辺の中心市街地（33.7%）」、「郊外における農地等を宅地化した土地（11.3%）」の順になっている。



▲ 年代別集計

2-3. 今後の農地のあり方

- ・10～20代では、「今ある農地を守っていくべき」の割合が40.3%と最も高く、次いで「市街地の隣接地や幹線道路沿いであれば農地を他の用途に変えてもやむを得ない（33.9%）」、「農業関連施設であれば農地を他の用途に変えてもやむを得ない（25.8%）」の順になっている。
- ・30～40代では、「市街地の隣接地や幹線道路沿いであれば農地を他の用途に変えてもやむを得ない」の割合が42.4%と最も高く、次いで「今ある農地を守っていくべき（27.6%）」、「農業関連施設であれば農地を他の用途に変えてもやむを得ない（22.8%）」の順になっている。
- ・50～60代では、「市街地の隣接地や幹線道路沿いであれば農地を他の用途に変えてもやむを得ない」の割合が38.0%と最も高く、次いで「今ある農地を守っていくべき（29.8%）」、「農業関連施設であれば農地を他の用途に変えてもやむを得ない（23.6%）」の順になっている。
- ・70代～では、「市街地の隣接地や幹線道路沿いであれば農地を他の用途に変えてもやむを得ない」の割合が36.9%と最も高く、次いで「今ある農地を守っていくべき（34.0%）」、「農業関連施設であれば農地を他の用途に変えてもやむを得ない（17.8%）」の順になっている。



- 今ある農地を守っていくべき
- 農業関連施設であれば農地を他の用途に変えてもやむを得ない
- 市街地の隣接地や幹線道路沿いであれば農地を他の用途に変えてもやむを得ない
- その他
- 未回答

▲ 年代別集計

3. 都市基盤整備のあり方について

3-1. 道路整備や交通について力を入れるべき整備や取り組み

- ・10～20代では、「バス等の交通手段を確保する」の割合が35.5%と最も高く、次いで「まちなかの駐車場を増やし自動車で行きやすくする」、「歩道の整備・拡張や段差を解消するためバリアフリー化する」、「家のまわりの生活道路を整備する」、「自転車専用レーンや自転車の専用道路を整備する」、「広域的な幹線道路を整備する」で20.0%を上回っている。
- ・30～40代では、「バス等の交通手段を確保する」の割合が38.5%と最も高く、次いで「まちなかの駐車場を増やし自動車で行きやすくする」、「家のまわりの生活道路を整備する」、「歩道の整備・拡張や段差を解消するためバリアフリー化する」、「広域的な幹線道路を整備する」で20.0%を上回っている。
- ・50～60代では、「バス等の交通手段を確保する」の割合が40.0%と最も高く、次いで「歩道の整備・拡張や段差を解消するためバリアフリー化する」、「まちなかの駐車場を増やし自動車で行きやすくする」、「家のまわりの生活道路を整備する」、「広域的な幹線道路を整備する」で20.0%を上回っている。
- ・70代～では、「バス等の交通手段を確保する」の割合が43.9%と最も高く、次いで「まちなかの駐車場を増やし自動車で行きやすくする」、「歩道の整備・拡張や段差を解消するためバリアフリー化する」、「家のまわりの生活道路を整備する」、「自転車専用レーンや自転車の専用道路を整備する」で20.0%を上回っている。

	高校生(参考)	10～20代	30～40代	50～60代	70代～
駐車場を増やす	24.5%	33.9%	35.7%	34.4%	39.3%
バリアフリー化	40.8%	29.0%	29.5%	37.6%	34.0%
生活道路整備	20.3%	29.0%	30.3%	28.4%	27.7%
交通手段確保	33.4%	35.5%	38.5%	40.0%	43.9%
幹線道路整備	21.3%	22.6%	23.8%	23.1%	15.4%
自転車専用道路整備	28.4%	27.4%	19.3%	15.1%	20.7%
その他	1.1%	1.6%	1.6%	3.6%	2.5%

▲ 年代別集計

※上記グラフの集計は、回答者数に対する比率で、各選択肢の割合の合計は100%にならない。

3-2. 公園や緑について力を入れるべき整備や取り組み

- ・10～20代では、「まちなかの賑わいを創出するためのイベント広場の整備」の割合が53.2%と最も高く、次いで「災害時の避難場所に活用できる公園や広場づくり」、「休日に家族と過ごせる大きめの公園や緑地づくり」、「日頃の遊び場となる小さめの公園や緑地づくり」で20.0%を上回っている。
- ・30～40代では、「災害時の避難場所に活用できる公園や広場づくり」の割合が51.0%と最も高く、次いで「まちなかの賑わいを創出するためのイベント広場の整備」、「休日に家族と過ごせる大きめの公園や緑地づくり」、「海岸や河川などの水辺空間での憩いの場づくり」、「日頃の遊び場となる小さめの公園や緑地づくり」で20.0%を上回っている。
- ・50～60代では、「災害時の避難場所に活用できる公園や広場づくり」の割合が69.0%と最も高く、次いで「まちなかの賑わいを創出するためのイベント広場の整備」、「休日に家族と過ごせる大きめの公園や緑地づくり」で20.0%を上回っている。
- ・70代～では、「災害時の避難場所に活用できる公園や広場づくり」の割合が69.0%と最も高く、次いで「まちなかの賑わいを創出するためのイベント広場の整備」、「河川沿いの並木や街路樹の整備」、「休日に家族と過ごせる大きめの公園や緑地づくり」で20.0%を上回っている。

	高校生(参考)	10～20代	30～40代	50～60代	70代～
災害時の避難場所	35.8%	45.2%	51.0%	69.0%	69.0%
大きめの公園	31.3%	35.5%	33.5%	22.8%	20.9%
イベント広場	36.1%	53.2%	35.1%	32.8%	29.6%
水辺空間の憩いの場	30.3%	12.9%	26.5%	19.9%	21.3%
小さめの公園	25.8%	22.6%	20.8%	15.0%	14.6%
街路樹の整備	12.1%	12.9%	12.7%	19.2%	21.6%
各家庭の緑化推進	2.6%	6.5%	0.8%	3.8%	5.2%
その他	1.1%	0.0%	2.4%	3.3%	3.5%

▲ 年代別集計

※上記グラフの集計は、回答者数に対する比率で、各選択肢の割合の合計は100%にならない。

3-3. 自然環境を守り美しい景観をつくるために力を入れるべき整備や取り組み

- ・10～20代では、「歴史的な景観や建造物の保全」の割合が55.7%と最も高く、次いで「周辺の山林や水辺などの豊かな自然の保全」、「住宅地周辺などの田園風景の保全」、「建物の高さや形、色などが統一されたまちなみの形成」で20.0%を上回っている。
- ・30～40代では、「周辺の山林や水辺などの豊かな自然の保全」の割合が58.1%と最も高く、次いで「歴史的な景観や建造物の保全」、「電線類の地中化」、「住宅地周辺などの田園風景の保全」で20.0%を上回っている。
- ・50～60代では、「周辺の山林や水辺などの豊かな自然の保全」の割合が61.2%と最も高く、次いで「歴史的な景観や建造物の保全」、「電線類の地中化」、「住宅地周辺などの田園風景の保全」で20.0%を上回っている。
- ・70代～では、「周辺の山林や水辺などの豊かな自然の保全」の割合が57.8%と最も高く、次いで「電線類の地中化」、「歴史的な景観や建造物の保全」、「住宅地周辺などの田園風景の保全」で20.0%を上回っている。

	高校生(参考)	10～20代	30～40代	50～60代	70代～
田園風景の保全	27.6%	26.2%	24.8%	25.8%	30.1%
歴史的景観の保全	39.7%	55.7%	46.7%	40.6%	34.8%
豊かな自然の保全	58.2%	54.1%	58.1%	61.2%	57.8%
景観の色・形の統一	24.2%	24.6%	8.1%	5.4%	8.5%
屋外看板等の規制	5.3%	1.6%	4.9%	7.8%	5.7%
電線の地中化	17.1%	19.7%	31.3%	39.2%	44.0%
その他	0.5%	1.6%	2.8%	3.1%	3.9%

▲ 年代別集計

※上記グラフの集計は、回答者数に対する比率で、各選択肢の割合の合計は100%にならない。

4. 都市防災について

4-1. 防災対策について力を入れるべき整備や取り組み

- ・10～20代では、「大雨による河川の氾濫や浸水被害に対する対策（堤防、遊水地、排水機場等）」の割合が46.8%と最も高く、次いで「安全な避難場所（避難タワー、避難ビルを含む）の整備」、「食糧の備蓄や非常用資材の備蓄」で20.0%を上回っている。
- ・30～40代では、「大雨による河川の氾濫や浸水被害に対する対策（堤防、遊水地、排水機場等）」の割合が52.5%と最も高く、次いで「安全な避難場所（避難タワー、避難ビルを含む）の整備（29.9%）」の順になっている。
- ・50～60代では、「大雨による河川の氾濫や浸水被害に対する対策（堤防、遊水地、排水機場等）」の割合が48.8%と最も高く、次いで「安全な避難場所（避難タワー、避難ビルを含む）の整備」、「食糧の備蓄や非常用資材の備蓄」、「防災関連情報の受伝達方法の改善」で20.0%を上回っている。
- ・70代～では、「大雨による河川の氾濫や浸水被害に対する対策（堤防、遊水地、排水機場等）」の割合が50.2%と最も高く、次いで「安全な避難場所（避難タワー、避難ビルを含む）の整備」、「食糧の備蓄や非常用資材の備蓄」で20.0%を上回っている。

	高校生(参考)	10～20代	30～40代	50～60代	70代～
安全な避難場所	51.6%	41.9%	29.9%	33.9%	31.8%
避難路等の整備	13.4%	17.7%	18.9%	18.0%	19.7%
浸水被害の対策(氾濫)	30.0%	46.8%	52.5%	48.8%	50.2%
水害対策(津波)	26.6%	17.7%	16.8%	11.1%	7.6%
建物の耐震性向上	14.7%	12.9%	9.0%	7.5%	7.3%
土砂災害対策	13.2%	8.1%	16.0%	13.1%	13.1%
食糧等の備蓄	18.4%	21.0%	19.3%	21.1%	21.8%
非常用施設整備	8.9%	11.3%	5.7%	6.7%	8.0%
防災関連情報受伝達改善	6.1%	12.9%	16.4%	20.4%	19.0%
地域の自主防災組織育成	5.8%	3.2%	7.4%	12.6%	13.8%
その他	0.0%	1.6%	0.4%	0.2%	1.7%

▲ 年代別集計

※上記グラフの集計は、回答者数に対する比率で、各選択肢の割合の合計は100%にならない。

5. 今後のまちづくりについて

5-1. 20年後の能代市の望ましいイメージ

- ・10～20代では、「旧能代市中心市街地や旧二ツ井町中心部での買い物がしやすいまち」の割合が45.2%と最も高く、次いで「お年寄りや障がいをもつ人にやさしいまち」、「鉄道やバスなどの公共交通の便が充実したまち」、「子育て支援施設等が近くにあるまち」、「観光によって賑わうまち」で20.0%を上回っている。
- ・30～40代では、「お年寄りや障がいをもつ人にやさしいまち」の割合が32.3%と最も高く、次いで「防災・防犯に優れた安全・安心なまち」、「医療福祉施設が近くにあるまち」、「子育て支援施設等が近くにあるまち」、「働く場と住む場が一体となったまち」、「旧能代市中心市街地や旧二ツ井町中心部での買い物がしやすいまち」で20.0%を上回っている。
- ・50～60代では、「お年寄りや障がいをもつ人にやさしいまち」の割合が43.8%と最も高く、次いで「医療福祉施設が近くにあるまち」、「防災・防犯に優れた安全・安心なまち」、「鉄道やバスなどの公共交通の便が充実したまち」、「旧能代市中心市街地や旧二ツ井町中心部での買い物がしやすいまち」、「働く場と住む場が一体となったまち」で20.0%を上回っている。
- ・70代～では、「お年寄りや障がいをもつ人にやさしいまち」の割合が49.3%と最も高く、次いで「医療福祉施設が近くにあるまち」、「防災・防犯に優れた安全・安心なまち」、「旧能代市中心市街地や旧二ツ井町中心部での買い物がしやすいまち」、「鉄道やバスなどの公共交通の便が充実したまち」で20.0%を上回っている。

	高校生(参考)	10～20代	30～40代	50～60代	70代～
中心部で買い物がしやすいまち	34.5%	45.2%	22.6%	24.2%	28.6%
郊外で買い物がしやすいまち	18.9%	17.7%	15.7%	7.6%	4.8%
お年寄りや障がい者にやさしいまち	32.4%	33.9%	32.3%	43.8%	49.3%
働く場と住む場が一体となったまち	13.9%	17.7%	23.4%	22.9%	17.6%
安全・安心なまち	29.7%	17.7%	27.8%	31.8%	32.8%
子育て支援施設等が近くにあるまち	18.7%	27.4%	24.6%	14.2%	14.8%
医療福祉施設が近くにあるまち	12.6%	16.1%	27.4%	37.9%	37.9%
潤いのあるまち	20.5%	14.5%	19.0%	9.6%	10.3%
公共交通の充実したまち	20.0%	33.9%	19.8%	26.1%	28.3%
企業や工場が立地するまち	6.8%	11.3%	10.9%	16.6%	17.9%
農林漁業が活発なまち	6.8%	3.2%	9.7%	12.2%	9.7%
住環境を重視するまち	20.0%	16.1%	16.5%	16.3%	14.1%
個性豊かなまち	16.6%	8.1%	15.7%	10.5%	8.3%
観光によって賑わうまち	19.7%	22.6%	13.7%	9.8%	6.9%
その他	0.8%	1.6%	2.4%	2.0%	0.7%

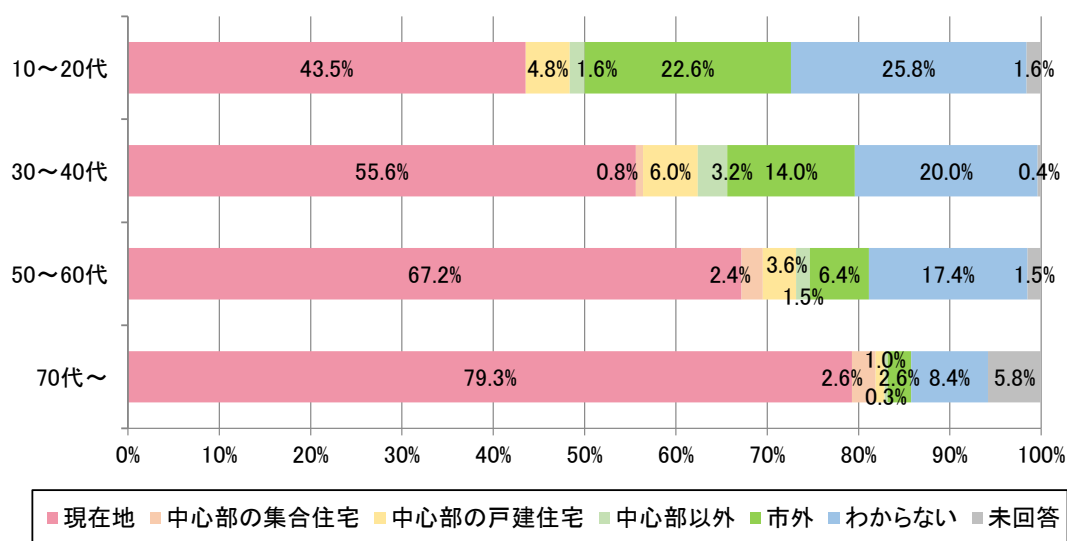
▲ 年代別集計

※上記グラフの集計は、回答者数に対する比率で、各選択肢の割合の合計は100%にならない。

5-2. 住み替えの意向

(1) 住み替えの意向

- ・10～20代では、「現在地に住み続けたい」の割合が43.5%と最も高く、次いで「わからない、どちらともいえない(25.8%)」、「可能であれば市外へ移りたい(22.6%)」の順になっている。
- ・30～40代では、「現在地に住み続けたい」の割合が55.6%と最も高く、次いで「わからない、どちらともいえない(20.0%)」、「可能であれば市外へ移りたい(14.0%)」の順になっている。
- ・50～60代では、「現在地に住み続けたい」の割合が67.2%と最も高く、次いで「わからない、どちらともいえない(17.4%)」、「可能であれば市外へ移りたい(6.4%)」の順になっている。
- ・70代～では、「現在地に住み続けたい」の割合が79.3%と最も高く、次いで「わからない、どちらともいえない(8.4%)」、「可能であれば旧能代市中心市街地や旧二ツ井町中心部の集合住宅に移りたい(2.6%)」「可能であれば市外へ移りたい(2.6%)」の順（未回答除く）になっている。



▲ 年代別集計

(2) 住み替えたい場所（「②住み替えたい理由」を回答した方のみ）

- ・10～20代では、「日常的な買い物や飲食が便利な地域」の割合が76.5%と最も高く、次いで「娯楽や交流施設が充実した地域」、「鉄道やバスを利用しやすい地域」、「子育て支援施設（幼稚園、保育所、こども園）が充実した地域」で20.0%を上回っている。
- ・30～40代では、「日常的な買い物や飲食が便利な地域」の割合が74.1%と最も高く、次いで「診療所や医院など医療施設が充実した地域」、「治安や防犯が良い地域」、「鉄道やバスを利用しやすい地域」、「娯楽や交流施設が充実した地域」、「家族の通勤や通学に近い地域」で20.0%を上回っている。
- ・50～60代では、「日常的な買い物や飲食が便利な地域」の割合が81.7%と最も高く、次いで「診療所や医院など医療施設が充実した地域」、「鉄道やバスを利用しやすい地域」、「災害の心配のない地域」で20.0%を上回っている。
- ・70代～では、「日常的な買い物や飲食が便利な地域」の割合が77.8%と最も高く、次いで「診療所や医院など医療施設が充実した地域」、「災害の心配のない地域」、「治安や防犯が良い地域」、「鉄道やバスを利用しやすい地域」、「デイサービスなど福祉施設が充実した地域」、「音楽ホール等の文化施設が充実した地域」で20.0%を上回っている。

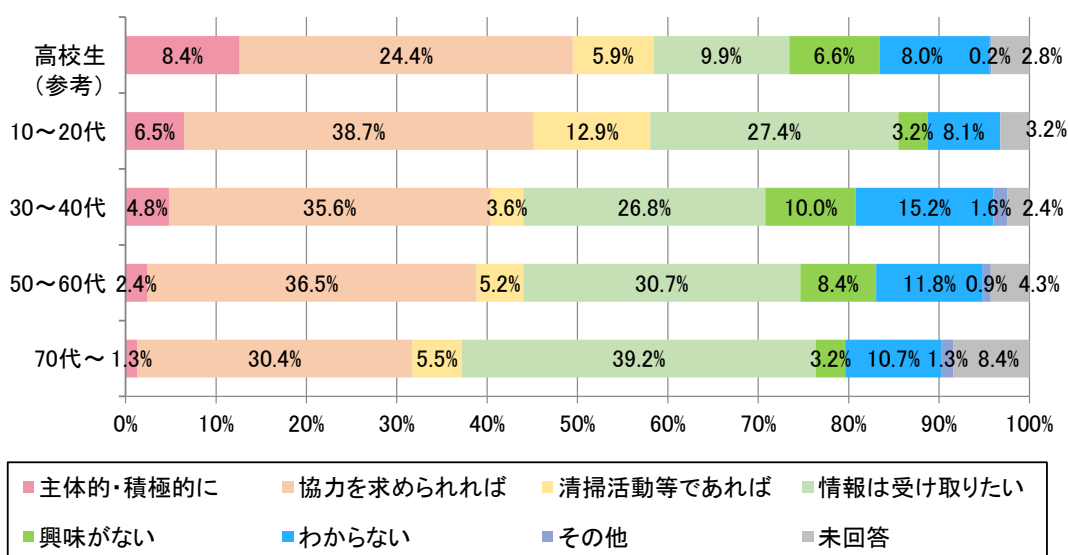
	高校生(参考)	10～20代	30～40代	50～60代	70代～
買い物等が便利	66.8%	76.5%	74.1%	81.7%	77.8%
鉄道・バスが利用しやすい	52.5%	47.1%	25.9%	33.3%	22.2%
医療施設が充実	13.9%	5.9%	36.2%	58.3%	44.4%
福祉施設が充実	1.0%	0.0%	1.7%	15.0%	22.2%
自身の通勤(学)に近い	31.2%	5.9%	10.3%	8.3%	5.6%
家族の通勤(学)に近い	6.4%	5.9%	20.7%	10.0%	0.0%
幼稚園等が充実	5.0%	29.4%	6.9%	1.7%	0.0%
児童館等が充実	4.0%	11.8%	6.9%	0.0%	0.0%
娯楽施設が充実	33.7%	58.8%	22.4%	11.7%	11.1%
道路・公園が整備	5.9%	11.8%	8.6%	5.0%	0.0%
文化施設が充実	4.0%	5.9%	8.6%	8.3%	22.2%
体育施設が充実	7.4%	0.0%	3.4%	0.0%	0.0%
緑が多い	5.0%	5.9%	6.9%	6.7%	0.0%
災害の心配がない	10.9%	17.6%	17.2%	30.0%	44.4%
治安が良い	17.8%	5.9%	27.6%	16.7%	27.8%
わからない	0.0%	0.0%	1.7%	1.7%	0.0%
その他	2.5%	5.9%	6.9%	8.3%	0.0%

▲ 年代別集計

※上記グラフの集計は、回答者数に対する比率で、各選択肢の割合の合計は100%にならない。

5-3. まちづくり活動に対する意向

- ・10～20代では、「協力を求められれば、できる範囲で参加したい」の割合が38.7%と最も高く、次いで「直接参加できないが、情報は受け取りたい(27.4%)」、「清掃活動やイベント運営支援であれば協力したい(12.9%)」の順になっている。
- ・30～40代では、「協力を求められれば、できる範囲で参加したい」の割合が35.6%と最も高く、次いで「直接参加できないが、情報は受け取りたい(26.8%)」、「わからない(15.2%)」の順になっている。
- ・50～60代では、「協力を求められれば、できる範囲で参加したい」の割合が36.5%と最も高く、次いで「直接参加できないが、情報は受け取りたい(30.7%)」、「わからない(11.8%)」の順になっている。
- ・70代～では、「直接参加できないが、情報は受け取りたい」の割合が39.2%と最も高く、次いで「協力を求められれば、できる範囲で参加したい(30.4%)」、「わからない(10.7%)」の順になっている。



▲ 年代別集計